



BCGワクチンは 結核予防ワクチンです

監修 公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨 先生



たすけあインコ

シールハイハイ

シールぼうや

結核は昔の病気だと思いませんか？

結核は、日本で今でも年間約1万5千人の患者が発生している感染症です。高齢の患者さんが多いですが、大人から子どもへうつる（感染する）ことも少なくありません。それに、結核に対する抵抗力はお母さんからもらうことはできません。

赤ちゃんは結核に対する抵抗力が弱いので、全身性の結核症や結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性もあります。

BCGワクチンって？

BCGワクチンはウシ型結核菌を弱毒化してつくった生ワクチンです。管針という器具を上腕の外側の2箇所押し付けて接種します。



BCGワクチンの定期接種の時期

BCGワクチンは生後1歳に達するまでに接種します。通常は生後5カ月から生後8カ月に達するまでに接種しますが、地域によっては、もっと早い時期（生後3カ月～）に接種をすることがあります。

なお、長期にわたり治療を必要とする病気にかかったことなどにより、上記の時期に接種を受けられなかった場合、接種を受けられるようになってから2年間（ただし4歳に達するまで）は、接種を受けることができます。



接種後の注意

接種したところは直射日光を避けて乾燥させてください。
お風呂に入ってもかまいませんが、接種したところをこすったり、ひっかいたりしないようにしてください。

接種後の経過について

接種後10日頃に接種したところに赤いポツポツができて、その後、一部に小さいうみが出ることがあります。この反応は、接種後4～6週頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3～4カ月頃には治り、小さな傷痕が残るだけになります。これは正常な反応で、BCG ワクチン接種により抵抗力（免疫）がついた証拠です。
このような皮膚の変化に対しては、包帯をしたり、バンソウコウを貼ったりしないで、そのまま清潔を保ってください。

接種後の一般的な経過



接種後2週 接種後4週 接種後6週 接種後10週 接種後4カ月

副反応について

接種したところが、接種後3カ月を過ぎてもジクジクしていたり、いったん乾いたのに再びジクジクしたりすることがあります。
また、BCG ワクチンを接種した側の脇の下のリンパ節がまれに腫れることがあります。普通はそのまま様子を見るだけでかまいませんが、大きく腫れたり、化膿して自然にやぶれてうみが出ることがあります。
これらの症状が現れたり、体調に変化が現れた場合には先生に相談してください。

コッホ現象について



接種後の反応が早くでた場合

結核に既に感染している赤ちゃんに BCG ワクチンを接種すると、通常よりも早く（接種後1～5日）、強く接種部位の反応が起こることがあります。これをコッホ現象といいます。

コッホ現象かもしれない、と思ったら

① 変化に気付いたら、2～3日以内に必ず接種医を受診してください

この変化（コッホ現象）がでた場合、知らない間にお子さんが結核に感染していた可能性があります。本当に結核に感染しているかどうかを、きちんと調べる必要があります。
集団接種の場合や主治医と連絡が取れないときは、市区町村の予防接種担当課に相談してください。ただし、救急外来を受診するほどの緊急性はありません。
また、近年では子どもが結核にかかる率はとても低くなっているので、調べた結果、結核にかかっていなかったということも多いので、慌てないでください。

② 接種の2～4週間後には、腫れも落ち着きます

接種部位の皮膚が赤く腫れ、うみを伴う変化が見られる場合でも、ガーゼを当てるなどの処置で大丈夫です。接種の2～4カ月後には針痕が残る程度に治癒します。

コッホ現象の例



接種後2日 接種後5日 接種後7日

接種後3日以内の急激な変化（炎症・化膿など）が特徴です。
治るのも通常よりも早いぐらいです。